

南九州ミステリーツアー2022



2022 年 12 月

旅のチカラ研究所 植木圭二

旅行会社のミステリーツアーに妻と行ってきた。ツアーの正式名称は「全室オーシャンビューのリゾートホテルに泊まる 蒼き絶景に出逢う ミステリーツアー3 日間」というもので、行く前から南九州だろうと思いつつ、それ以上は何も調べることもなく参加した。

■ミステリーツアーが始まる

朝 7 時前、ツアー集合場所の羽田空港の集合カウンターに着く。手続きをして渡された航空券は宮崎行きのもので、私の予想通りだ。

飛行機の中は満席に近く、集合時間が早かったので眠っている人も多い。

そして 10 時に宮崎空港に着く。ここで現地の添乗員とバスガイドと合流する。添乗員はスレンダー系の 40 才くらいの女性、バスガイドも同じくらいのポッチャリ系の女性で、どちらも地元九州の人だろう。

バスに乗って今回のツアー参加者が 44 人だと説明を受ける。バスの座席は飛行機同様にほぼ満席状態で新型コロナウイルス感染症が広まる前の状態にほぼ戻っているなど感じる。ただし全員がマスクを着用していることが以前とは異なる点だろう。

■都城島津邸

バスは 1 時間程走り、私たちは宮崎県都城市にある島津邸に到着する。旅行前にもらった行程表では●●●●●邸（●●藩ゆかりの地）と書かれているが、これを「都城の島津邸」と予想するのはかなり難しい。入口の看板には「都城島津邸」と書かれており、そもそも文字数が合わない。島津といえば薩摩、鹿児島県で、それが宮崎県の都城にもあるとは知らなかった。しかしながら知らないところに連れて行ってもらえるのがミステリーツアーならではのかもしれない。

旅行会社も気を利かせて何も知らない私たちが普通に見学してもよく分からないから、ボランティアガイドを手配してくれており、地元の年配のお姉さん（？）が案内してくれる。

ここは鹿児島の島津宗家の分家の邸宅だが、分家とは思えないほど“格調高い立派な館”になっている。広い敷地には大きな駐車場、池、庭園、プール、大きな本宅、その他にも伝承館、剣道場、石蔵、外蔵などあって個人の家のレベルではない。

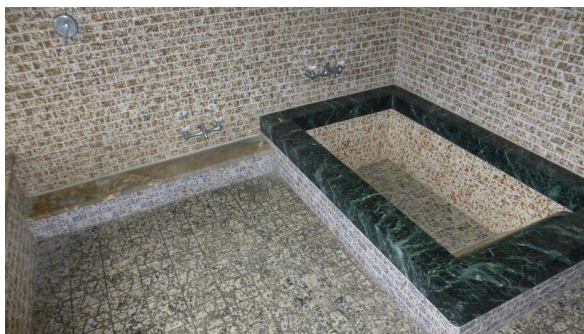


【都城島津家の本宅と庭園】

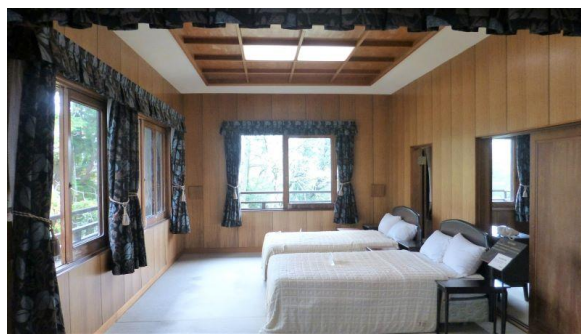
2階建の本宅に案内される。本宅は1879年（明治12年）に建てられ、昭和になって陸軍大演習が都城で行われた際に大改築を行い、その後に2階建て部分を増築した。そして現在の姿になったのは1973年のことだという。

それは全国植樹祭で宮崎県を訪れた昭和天皇皇后両陛下の宿泊のために改築された。それゆえ今も両陛下が宿泊した部屋や浴室、休憩室がそのままに保存されている。浴室はそのために新たに作ったというから、恐らく一度使用しただけなのだろう。その時の食事メニューも実際に食べたテーブルの上にレプリカで再現されている。

両陛下が泊まるということは如何に凄いことか、ボランティアガイドの話では民間の家に泊まった事例は全国でも極めて少なく、この都城島津家以外には〇〇家、△△家とのことだと、力説していた。



【両陛下が使用した浴室】



【両陛下が宿泊した部屋】

島津家の家系図があって、これも詳しく説明してくれる。

初代当主の島津忠久は源頼朝と鎌倉幕府成立に関わり、島津家はこの鹿児島一帯の領地の地頭守護職に任命されたことに始まった。

南北朝時代に4代目忠宗の6男の資忠が北朝側について戦い、それにより足利氏から都城を与えられて北郷（ほんごう）家の初代当主になった。豊臣秀吉の九州平定では本家の島津家（島津宗家）と共に秀吉軍と戦い苦汁をなめて、11代目は秀吉の朝鮮出兵に駆り出されて戦死した。それでも北郷家は継続し、江戸時代になって17代目の時に都城島津家に家名を変えて、現在は29代目が継いでいる。歴史のターニングポイントに何らか形で関わっている。

一方、島津宗家の家系は明治維新の立役者の島津斉彬は有名だが、その後を継いだ忠義の娘が皇族と結婚し、娘を産み、その娘が昭和天皇の妻になった。その縁もあり昭和天皇皇后両陛下が都城島津邸に宿泊することになった。

このようなことはここに来ないと分からない。まあ興味さえあれば調べれば分かることだが、その興味は現地に来て見て感動することで湧いてくる。旅は人間の知識欲を生む打ち出の小槌になることが多い。それは私の経験でもあり、そんな話を聞くことも意外に多い。

■霧島ファクトリーガーデン

都城は焼酎が有名で、通称“くろきり”と呼ばれる黒霧島などを造る霧島酒造が市内にある。その工場をテーマパークにした霧島ファクトリーガーデンで昼食を食べる。

レストランに入り席に着くと「霧島うまいもの膳」というかなり豪華なランチが出てきた。行程表では「●●●●●の昼食」と書かれているが、ここでも文字数が合わない。むしろ敢えて文字数を合わさないようにしているのかもしれない。

膳の内容は、宮崎県産鶏肉のチキン南蛮をメインに串間のぶりの刺身、九州産和牛の味噌煮込みなどの地元の料理がテーブルいっぱいにならんでいる。前菜のトマトとモッツアレラ日向夏ドレッシングが良い味を出していた。



【霧島うまいもの膳】

出口のところでメニューを見たら、今食べた膳は 1650 円と書かれていた。あの内容でこの値段はかなりお得のように感じられる。

ここはテーマパークなのでいろいろな施設があり、見学も試飲もできる焼酎工場、芝生のグラウンドゴルフ場、焼酎造りの歴史館、霧島焼酎神社などがある。

その焼酎神社の隣にあるカフェ売店を覗くとサバ・サンドを売っている。私の知っているサバ・サンドはトルコのイスタンブールのガラタ橋付近で売っている B 級グルメで、その味が忘れられずに、私はいつも旅行先で気にして見るようにしている。余程買おうかと迷ったが、先ほどのうまいもの膳で腹いっぱいだ。

■都城市歴史資料館

バスに乗り、同じ都城市内にある都城市歴史資料館を訪れる。

歴史資料館は都城盆地を一望する都城の城跡に建てられている。城は 1375 年に北郷義久が築城し、1615 年の江戸幕府の「一国一城令」により廃城となったが、その名前は、現在の都城市へと引き継がれたという。

外観は城のような形をした木造 3 階建て、内部は大きな吹きぬけの内部空間があり、ところどころで特徴的な木組み構造を見ることができる。1989 年開館というからまだ新しい。



【都城市歴史資料館の正面入口】

歴史資料館なので、この地域の歴史を旧石器時代から現代までの各時代の政治や暮らしを紹介している。展示はよく考えられていて、これは専門家それも見せるための専門家が考えた結果だろう。正直、私はこのように分かり易い展示はあまり見たことがない。

それが出来るのはしっかりとした歴史資料と出土品などの証拠の品があるからなのだろう。他の地方都市で同様なことをしようとしても、それらを裏付けるものがない。そもそも語るに耐えるだけの歴史もない。

■南郷プリンスホテル

初日の宿は日南市南郷町にある「南郷プリンスホテル」に泊まる。南郷という地名は都城の島津家が当初北郷家を名乗っていたことを考えると位置関係が分かる。プリンスホテルなので西武ライオンズのキャンプで使われており、球団の歴史や選手の等身大の写真などが多く飾れている。

温泉ではないが海に面した露天風呂がある。添乗員は大浴場ではないので洗い場も少ししかなく浴槽も小さいと言っていたが、そんなことはない。6人同時に使える洗い場があって、湯船は海に面したテラスのようなところにあって、同時に7～8人は浸かることができる。

波の音を聞きながら入ると実に気持ちが良い。

部屋はオーシャンビューで、目の前には海が広がり大きな島も見える。備え付けのパンフレットによると、この島は大島といい、かつては沿岸漁業で栄え、1950年代には400人程住んでいた。しかし過疎化が進み現在は無人島となっていると書かれている。

それにしても日本には大島が多い。気になってスマホで調べると56島とでてきた。そのうち私が渡ったことがあるのは先月行ったしまなみ海道の大島、先々月行った陸奥の大島、他は伊豆大島、奄美大島、紀伊大島で5島しか行っていない。せめて橋で繋がっている気仙沼大島と周防大島には早く行きたいものである。

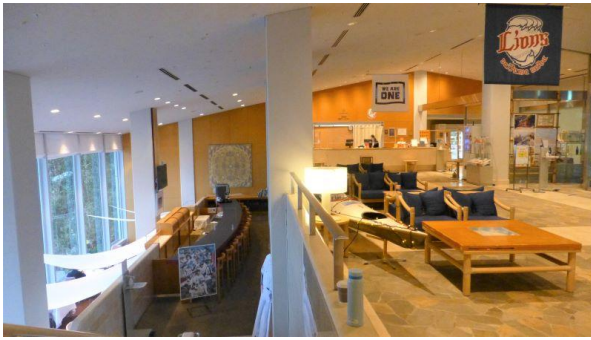
部屋には海側に突き出たスペースがあって、大きなソファが置かれている。プロ野球選手が練習に疲れて、このソファで海を見ながらホッと一息をついている姿が目につく。目の前の海は太平洋だが横に長い大島によって入り江のようになっており、耳を澄ますと波の音だけが聞こえてくる。



【泊まった部屋】

夜も波の音が実に心地よい音楽となって子守歌代わりになる。これならばプロ野球選手もぐっすり眠れるに違いない。

夕食も朝食もビュッフェスタイルで特別に感激がないが、レストランも海に面しており、これが食事をより楽しませてくれる。



【右がロビーとフロント 左がバー】



【朝食のワンシーン】

■都井岬

ミステリーツアーの2日目が始まる。私たちを乗せたバスは南下しており、宿から見えた大島の南に小さな島がある。バスガイドの話では、島の名は築島（つきしま）、現在は4人が住んでいる。その昔に築島さんという人が、この島を当時の金だが61円で購入し、親戚縁者が集まり一時は100人住んでいて小学校分校までできたという。

バスはさらに南下する。行程表では野生馬がいる●●岬へ行くとなっている。これはもう都井岬しかない。私はこの文言だけで行先が南九州だと分かった。

しかし本日はあいにくの雨で、都井岬灯台をチラ見し、「交流館パカラパカ」に立ち寄る。入口には現在の馬の生息数は102頭と書かれている。

交流館でここに暮らす岬馬について詳しく書かれている。高さ130cm前後、体重300kg前後、日本の在来馬の中では中型馬で、体形はがっちりして頭部が大きく、農耕馬として育成された日本在来馬と比べると足が細い。この岬に牧場が開設されて300年以上の間、管理をほとんどしない放牧で繁殖と育成は自然にまかされてきた。そのため粗食に耐え、強健で、斜面が多い自然環境にも適応している。現存する日本在来馬の中では唯一半野生で生息している。

雨のためにいい勉強になった。それでもバスの中から何頭もの馬を見ることができた。



【都井岬の岬馬】

■ 飢肥（おび）

次に向かうのは行程表では、●●城下町（重要伝統的建造物群保存地域に指定された城下町）とあるが、これは分からなかった。飢肥（おび）の街を知らないのと、そもそも地図をみても飢肥という漢字が読めない。

飢肥の街は小ぢんまりしていて、私好みのいい感じの城下町になっている。小雨が降る中だが、飢肥城跡を散策する。



【飢肥城 大手門】

雨宿りを兼ねて飢肥城跡の隣接する「飢肥城歴史資料館」に入る。

この資料館は良く出来ている。実際に手に持つことができる火縄銃のレプリカや日本刀などがある。火縄銃の重さは1800gと書かれている。

飢肥の街の歴史が良く分かるように工夫されている。昨日行った都城市歴史資料館も工夫されていたが、この地域はやはり歴史文化を大切にしていることがうかがわれる。

特に分かり易かったのは、飢肥の街の説明のために街の地形をかたどった凹凸のある台の上からプロジェクターで光を照射して映像によって街を紹介しているもので、他の歴史関連施設では見たことがない。



【飢肥の街を映すプロジェクター】

飢肥城の築城時期は明確になっていないが 1300 年代中頃、鎌倉幕府が終わり室町幕府の初期の南北朝時代なる。

平安末期からこの地域で勢力をほこったのは土持（つちもち）氏で、鎌倉時代になると伊東祐時という武士が日向の地頭に任ぜられて移ってきた。伊東という姓は鎌倉幕府を開いた源頼朝が伊豆へ流されていた時に見張り役を務めた伊東一族のひとりだ。

伊東氏は実力者の土持氏に接近し親密になった。飢肥城が築城されたのはこの頃だろう。しかしその後、土持氏は薩摩の島津氏の配下になり、ここから伊東氏と島津氏の飢肥城をめぐる 100 年にわたる争いが始まる。

1485 年、伊東氏が飢肥へ侵攻し大きな戦になった。しかし城は奪えなかった。島津氏は戦いの原因になった城主の土持氏を交代させて直接飢肥城を治めるようになった。その後、伊東氏は勢力をつけ飢肥城奪取に成功するが、その 9 年後に再び島津氏に奪われた。

島津氏に負けた伊東氏は大分の戦国大名大友宗麟を頼り、最終的には天下統一を進める豊臣秀吉の配下になった。伊東氏は秀吉の九州平定に参加し島津氏と戦い、秀吉から飢肥城を与えられた。その後の関ヶ原の戦いでも伊東氏は東軍に味方して徳川家康より飢肥城と 5 万石の領地を与えられた。伊東氏は単独では強敵の島津氏に対抗できないまでも、秀吉や家康の力を利用することで飢肥城を奪い返したことになる。

その後は伊東氏が城を持ち続けたが、明治政府の廃城令で城は取り壊された。

飢肥城に一番近いのは都城島津家で、この飢肥と昨日見た都城島津家の歴史が今重なった。

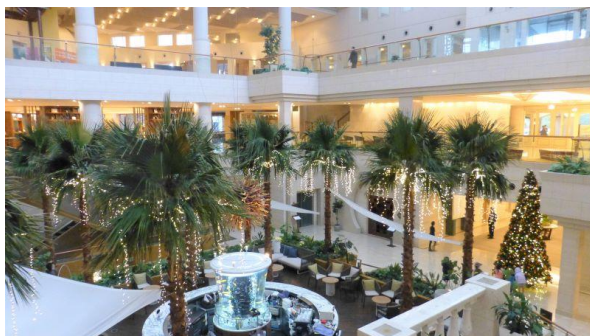
もう一つ感じたことは、私たちはどうしても時の権力者つまり中央政権に注目して歴史を見るが、地方には地方の歴史が存在する。そして地方においては中央政権から支援を受けられるかどうかで情勢が変わる。その構造は現代においてもあまり変わらないかもしれない。

■シュラトンに泊まる

本日は世界的ブランドのホテルの泊まると行程表には書かれている。着いたのは「シュラトン・グランデ・オーシャンリゾート」で宮崎シーガイアの真ん中にあるホテルだ。43 階建ては九州で一番高いビルということで、かなり遠くからも見ることができる。

隣にゴルフ場があり、ゴルフ客も多く泊まっている。それもそのはずで男子プロゴルフのトーナメント大会「ダンロップ・フェニックス」が開催されるコースで、ロビーには先日開催された大会のスコアボードも飾ってある。

吹き抜けのロビーは贅沢にできており、既にクリスマスの飾りも済ませてあり、とにかく凄いとしか言いようがない。部屋もちろん広く贅沢な造りをして、眼下にはゴルフ場も見える。



【ロビーとエントランス】



【部屋の中 窓の外にゴルフ場と海が見える】

この一帯は、国の総合保養地域整備法（リゾート法）の第 1 号指定で「宮崎・日南海岸リゾート構想」の中核施設として建設された。1993 年に世界最大級の室内プール「オーシャンドーム」やゴルフコースなど開業させ、2000 年にはサミット外相会合も開かれた。

私は早速、温泉大浴場に行く。しかし一旦外へ出て結構な距離を歩いていくので、部屋を出て 5 分以上かかる。おそらく最初は温泉大浴場を造る予定もなくオープン当時は無かったが、お客の温泉要望に押されて後から造ったものだろう。

大浴場は全体的に和の雰囲気、洗い場もゆったりしている。大きな露天風呂の中央には相撲の土俵の上に架かる屋根のようなものがある。驚いたのは露天風呂の隣に離れがあってサウナになっている。サウナー歴 20 年で各地のサウナを渡り歩いている私にしても、離れのサウナはあまり経験がない。

温泉を地下 1000m から汲み上げており、海の近くなので塩分が多くややしょっぱい。

残念ながら写真は撮ることができなかったのですが、ホテルの HP 見て欲しい

食事も昨日と同様なビュッフェスタイルだが、内容的には各段に良い。高級食材もあるが宮崎の郷土料理の地鶏、冷や汁、チキン南蛮などあって、実に美味しい。私は地鶏を何回もお代わりしてしまった。

私が泊まっている 22 階の部屋からはゴルフ場のコースが見える。夜になるとコースに照明がついて素晴らしい景色を演出している。演出かと思ったら、よく見るとゴルフをしている人もいるようでナイターゴルフとは驚きだ。さらに夜が更けるとコースの両脇だけ小さな青や白の LED 照明になる。これもなかなかいい感じだ。



【部屋から見た照明で照らされたゴルフ場】

■青島

行程表に書かれている本日の予定は、絶景の●●峠、そして絶景●●（●●神社や●の●●●●と言われる波状岩が有名）、●●●●●ガーデンを約 20 分見物するとある

バスはフェニックスが立ち並ぶ堀切峠を抜けて道の駅に立ち寄り、U ターンして青島に着く。そして青島神社を参拝して鬼の洗濯岩を見る。青島の入口にあるボタニックガーデンは立ち寄らず、昼食兼の自由行動の時にご自由にお入り下さいと言われる。

私にとって青島は久しぶりで、ゴルフで宮崎に来て以来になる。旅の記録を調べると 2006 年のことなので、実に 16 年ぶりの青島訪問になる。その時とあまり変わっていないように思える。

むしろ変わったのは私の方だろう。当時の私は 50 才、まだ忙しい現役のサラリーマンでゴルフを始めて数年という頃で、ゴルフの腕前もどんどん上達する過程にあった。



【青島 鬼の洗濯岩も見える】

行程表ではこれから空港に行くだけになっているが、もう一つ観光地に立ち寄ると添乗員が言っている。行程表にない所に行くとは、これもミステリーツアーの醍醐味といえればそれまでだが、禁じ手と言う人もいるかもしれない。しかし私はむしろウエルカムで、行程表の無い旅も面白い。

■霧島神宮

バスは霧島神宮に到着する。立派な神社で、私は初めての参拝になる。

傾斜地に本殿、幣殿、拝殿を配して、参拝客から見ると拝殿の向こうに幣殿、そして本殿の屋根が見えてさらに背後には霧島連峰の高千穂峰（たかちほのみね）が連なる。内装も素晴らしいので国宝に指定されている。

その高千穂峰は天照大神の孫であるニニギノミコトが、天孫降臨した山であるとされる。山頂には、ニニギノミコトが降臨したときに峰に突き立てた青銅製の天逆鉾（あまのさかほこ）が立っており、山岳信仰の舞台となった。坂本龍馬が妻のおりょうとこの地を訪れ、天逆鉾を抜いたことは有名な話だ。そしてこれが日本初の新婚旅行とも言われている。境内にはその龍馬とおりょうをモデルにした看板がある。もちろん新婚旅行の龍馬たちも霧島神宮を参拝している。



【霧島神宮の拝殿、幣殿、本殿】



【坂本龍馬とおりょうの看板】

■ミステリーツアー

空港に向かうバスで、添乗員が「ミステリーツアーは楽しんでいただけましたか、予想していた場所は予想通りでしたか」などと言っている。乗客は大きくうなずく人、首を振る人もいる。今度はバスガイドが「最近では真剣に調べて来る人が多いようで、Google で画像を入れて検索するとそこがどこかを教えてくださいますから、写真だけでも分かってしまうのですよね」と、明るく話しているものの半ば愚痴に聞こえてくる。

私もかつては真剣に調べて参加していたが、最近は何も調べない。寒さや暑さの対策のためにどの辺りかだけ分かれば問題ないと思っている。

私の持論は「旅とは非日常への移動」であり、日常とのギャップが大きいほど感動も大きい。その感動とは、自分の予想に対してどのくらい上回ったかで決まる。全く予想していないもののほど感動も大きい。つまり偶然に出会った人物や事柄、景色に感動が大きくなるというものだ。

一般的にパックツアーは旅行会社が組んだ行程に乗るので偶然が少なく、個人旅行は行き当たりばったりで偶然も多い。しかしパックツアーの場合はリスクも少ない。リスクとは危険性という意味もあるが、観光名所に行けないとか名物料理を知らずに食べないなども有る意味リスクになる。個人旅行の場合は見過ごすとか、そもそも知らないから行かなかったとか食べなかったということも多い。つまりパックツアーと個人旅行はメリットとデメリットが表裏一体の関係にあると言ってもいいかもしれない。

ところがミステリーツアーはそれらの良いところををしていると言っていいだろう。ここは見逃せないという場所には連れて行ってもらえて、予想していないので感動もある。そう考えるとミステリーツアーは事前に調べない方がよいという結論に至る。

さらに最近私がミステリーツアーに参加する理由は上記以外にもある。ミステリーツアーに参加するお客の多くは既にあらかたの有名観光地に行っている人が多いから、旅行会社としてはあまり人が行ったことがないような穴場を探してくる。結果としてそうはならなくても少なくともその努力の跡はうかがえる。そう考えるとミステリーツアーは自身の旅行経験に合わせて参加するのがいいのかもしれない。

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。

評価の基準は、5は驚き感動、4は普通に良い、3は可もなく不可もない、2は普通に悪い、そして1は失望落胆としている。

宿泊費は、ツアーのため直接料金を払っていないのでコスパについては宿のHPで調べて評価した。

「南郷プリンスホテル」は温泉ではないので泉質は評価せず、風呂4、料理3、コスパ4、サービス3、建物・部屋4、立地環境5、総合点3.83になった。

「シュラトン・グランデ・オーシャンリゾート」は泉質3、風呂5、料理4、コスパ3、サービス4、建物・部屋5、立地環境4で、総合点4.00になった。

湧出温度34.1℃、pH6.8、泉質はナトリウム-塩化物強塩泉（高調性中性温泉）になっている。

■旅の記録

旅行は2022年12月4日（日）～12月6日（火）の2泊3日、行程を以下に記す。

- ・1日目 7時10分に羽田空港集合、8時00分に羽田を出発し、9時55分宮崎空港に到着、都城の「島津邸」見学、霧島酒造「ファクトリーガーデン」で「霧島うまいもの膳」の昼食、「都城歴史博物館」見学、「南郷プリンスホテル」宿泊
- ・2日目 9時にホテル出発、都井岬の灯台、都井岬観光交流館「パカラパカ」に立ち寄り、飫肥城下街の見物及び昼食の自由行動（私たちは飫肥城跡散策と飫肥城歴史資料館見学して食事処で昼食）、日南海岸を北上し宮崎市内へ、15時にシュラトン・グランデ・オーシャンリゾートに到着
- ・3日目 9時にホテル出発、堀切峠を抜けて「道の駅フェニックス」立ち寄り、青島神社参拝後に自由昼食、14時に霧島神社参拝、15時30分鹿児島空港着 16時55分鹿児島空港発のフライトで18時30分羽田空港着、20時過ぎ帰宅

費用は2人で約11万4千円、1人当たり約57000円、以下2人分の費用内訳を示す。

- ・阪急交通社払い込み 109480円 （元は2人で約14万円だったが
全国旅行支援32000円を割引後）
- ・飲み物、土産物など 約2000円 （全国旅行支援クーポン券12000円使用后）
- ・自宅から羽田空港往復の交通費 約2000円